

専門性の高い診療とおもてなしの心で訪れる方に安心を提供する

乳腺専門の医療施設不足の現状をふまえ、2009年9月に開院した堀井乳腺外科クリニック。高密度画像にこだわり、コニカミノルタのCプレートシステム*を採用。高精細モニターを配したI-PACS EX 読影マンモオプションで撮影画像と患者情報を一元管理している。

堀井乳腺外科クリニック

院長 堀井吉雄

〒374-0057 群馬県館林市北成島町 2645-4
TEL 0276-55-2100



▲高い専門知識と穏やかな人柄で患者さんに信頼される
堀井吉雄院長

▲来院する人の緊張を解きほぐす明るく落ち着いたロビー

年々増える乳がん患者に必要なのは細やかな対応力

乳腺外科分野における堀井吉雄院長のキャリアは長い。日本の乳腺外科分野をリードしてきた群馬大学医学部附属病院の第二外科で臨床経験を積み、その後チーム医療を重視する埼玉県立がんセンターでがん診療と手術にたずさわった。さらに館林厚生病院では年々乳がん患者を担当するケースが増え、その頃から乳腺外科専門の施設の必要性を痛感するようになったという。

「いまの先進医療というのはひとりの医師の力ですべての治療に対応することは到底不可能です。乳がんの場合でいえば、手術後長きにわたってフォローしていくためにはやはりかかりつけの専門施設があった方がいいのです。近年徐々に増えてきたとはいえ、乳腺外科は専門医もスタッフも施設もまだまだ不足しています。それならば、自分の専門技術を深めながら患者さんたちに十分な医療サービスを提供できる施設を作るべきではないかと考え、クリニック開業にいたったのです」

堀井乳腺外科クリニックは、現在、手術後の患者さんのケア、再発患者さんのケア、そして検診と幅広い対応を行っている。

「術後の患者さんをこちらで診察することもあれば、逆に病院へ患者さんを紹介することもあります。病院とクリニックは棲み分けをし、病院ではなかなかできない細やかなフォローをする



* Cプレートシステム: 最小43.75 μm サンプリングピッチで画像読み取りを行う REGIUS190(CR)、鮮銳性・粒状性が飛躍的に向上した CP1M200(カセットプレート)、タッチパネル方式でシンプルな操作性を実現したCS-5(コンソール)で構成される

▶地域の皆さんに親しみを持つていただこうと、同クリニックの姿勢があらわされている



のがクリニックの役目。地域ぐるみのしっかりした連携により的確な処置をしていくことで乳がんの死亡率は確実に引き下げられると思います」

丁寧な診察をこころがけるため、一日あたりの来院者数は限られる。

「当クリニックでは、一日平均 20 人程度の診察です。何らかの所見がある方が多いですから、予約時間には余裕を持たせるようにしています。ゆっくりとお話を聞きすることで、患者さんは安心されますし、そこが当クリニックの利点だと思っております」

新たなアイデアと工夫が盛りこまれた開院記念イベント

医療施設の開院時には関係者や地元の方をまねいて内覧会を行うのが一般的だが、同クリニックでは記念のイベントが行われた。

「地元に密着した乳腺専門施設だということをより多くの皆さんに知つていただくとともに、乳がん検診率をあげるための妙案はないかと事務長とともに考え、イベントを催すことにしたのです」

クリニックの告知とともに、乳がん検診の大切さもこの機会にしっかりとアピールしたかったという。

「乳がん検診が身近ではない、小さなお子さんを持つ 30 歳代～40 歳代のお母さんの参加をはかりたいと考え、群馬大学で小児科学にたずさわっておられる岡田恭典先生の講演、筝で現代音

楽を奏でる異色の若手ユニット『和音』のコンサートを盛りこみました。普段育児で忙しいお母さんも、こういったプログラムでしたら関心を持つのではないかと思ったのです」

予想は的中し、300 人を超える方がイベントに訪れ、盛況となった。堀井院長はいう。

「乳がん死者を一人でも少なくするためにには、なかなか検診を受けそうにない人へどうやってアピールして検診を受けるようにするかを考えなくてはなりません。例えば、美容院など普段女性がよく訪れる場所にパンフレットを置くなど、医療関係者それぞれが少し工夫をしていくだけで検診率はあがると思います」

不安があったモニター読影も I-PACS EX でスムーズに移行

同クリニックは完全なフィルムレス環境下で診療が行われている。

「私自身それまではずっとフィルムで読影をしていましたので、多少の不安はありました。しかし今後のことを考えれば、モニター読影はさけて通れない道だと考え、導入に踏み切りました」事前にデジタルマンモグラフィー講座にも参加し、各社の機器を比較した上でコニカミノルタの I-PACS EX 読影マンモオプションの導入を決定した。

「5M の高精細モニターと組み合わせたときの画質の鮮明さと使いやすさが選んだポイントです。またマンモ撮影機

▶堀井みゆき事務長のさまざまなアイデアが経営に生かされている。手にしたマスクがオリジナルで制作した



能をワンボタンで選択できるプログラマブルテンキーは、非常に便利ですね。私のようなモニター読影初心者でも画像調整が簡単にできます」

患者さんのデータは I-PACS EX で一元管理している。撮影画像とカルテがリンクし、万が一の入力間違えや患者さんの取り違えに備えている。

「初診の方には本人の了承の上、顔写真を撮らせていただき、その写真をカルテに挿入するようにしています。これで、私が診察する場合には患者さんの顔を見ながら間違いがないことを確認できるのです。それほど患者さんが多いわけではないですが、万全を期して考えられる範囲でのリスク回避は率先して実行しようと思っています」

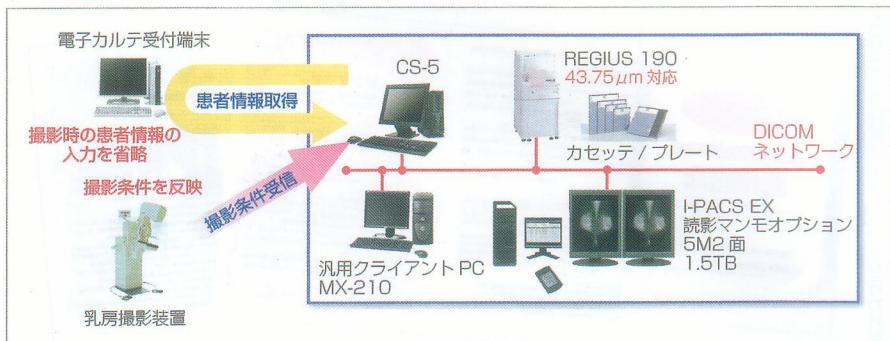
女性が気軽に訪れる能够のクリニックをつくりたい

診療所では院長が経営者も兼ねることが多いが、同クリニックでは事務長の堀井みゆき氏が経営にあたる。

「院長や医療スタッフが医療の専門家として患者さんに接する一方で、私は患者さんの目線、検査にいらっしゃる女性の目線でサービスを考えていきたいと思っています。当クリニックには集団検診などで異常が認められ、二次検診でいらっしゃる方も多く、非常に不安な気持ちで足を運ばれます。そんなときに医療関係のポスターが無神経にベタベタ貼ってあったり、愛想のない受付の応対に接したりしたら、ます

堀井乳腺外科クリニック

▼院長と事務長、スタッフのみなさん



▲システム図

ます気持ちが落ち込んでしまうのではないか。ですから少しでも気持ちが和らぐ空間を提供したいと考えているのです」

クリニックには診察室や検査室というプレートすらない。スタッフがその都度案内するので来院者が不便を感じることはないという。事務長は、自らを“医療の素人”と称し、素人の感覚を医療の現場に取り入れることも大切だという。

「医療界では常識となっていることも、一般の人から見たら『どうして?』と疑問に思うこともあるはずです。そのひとつがいかにも専門機関らしい事務的な応対。もちろん忙しい医療スタッフ

にとってはいちいち感情移入した応対をすることが不可能な場合もあるでしょうが、冷静な対応がときには冷徹な対応となって患者さんの胸につきささることもあります。そんなことをふまえて、当クリニックでは来院された方におもてなしの心で接するよう徹底しています。医療施設でおもてなし、というのは一見ちぐはぐに思われるかもしれません、気持ちがめげてしまったとき、冷静に事務的な応対をされるより、気持ちを慮った丁寧な応対をされた方が安らぐと思いますし、それが普通の感覚だと思うからです」

そういった普通の感覚は医師と医療スタッフの関係性にも反映されている。

「このクリニックでは、院長をスタッフが支えるというのではなく、院長を含めたすべてのスタッフが患者さんを支えるというスタンスで対応させていただいている。院長を頂点としたピラミッドではなく、スタッフがそれぞれの能力を発揮するひとつのチームとして機能することを目標としているのです」

乳がん検診の受診率を高めるためには、啓蒙活動とともに、女性が気負いなく訪れるができる医療施設も重要なファクターである。同クリニックはまさにそれを体現しているといえるだろう。

Cプレートシステムの使い心地

マンモグラフィを安心して受けさせていただくために

同クリニックでは一日20人程度の患者さんが訪れ、女性技師がマンモグラフィやエコーの撮影にあたっている。マンモグラフィはI-PACS EXでデータ管理され、撮影画像は技師がチェックした後、CS-5から院長が使用するI-PACS EXへ送られる。新井智永子技師はCプレートシステムについて次のように語る。



▶新井智永子技師

「Cプレートの受入試験で、線量が少なくて鮮明な画像が得られることを確認し、その性能の高さを実感しました。実際にCプレートを使用してみて、高画質に加え、高速表示にも便利さを感じています」

新井技師も完全なフィルムレス環境ははじめてだが、工夫しながら、よりよい環境づくりをめざしている。

「撮影室にI-PACS EXのクライアントを1台追加し、撮影直後の画像はCRで、過去画像はクライアントのビューワーで比較確認をしています。そうすることで、院長へ画像を送る前に、より入念なチェックができるからです。フィルムと比較すると、濃淡のコントラストが弱いかなという印象はあったのですが、特にストレスとなるような要素はありませんでした。現在はコニカミノルタ

さんと話しながら、細かい調整を進め、より使いやすい環境に整えつつあるところです。フィルムでは不可能だった画像拡大が簡単にできるのが大きな利点ですね」

365日24時間体制でのアフターサービスも安心材料になっているという。

「当初、慣れない機械操作でとまどつこともあったのですが、リモートメンテナンス機能があり、いつでも対応していただくことが可能なので、操作面での不安は解消しました」

今後は、「マンモグラフィは痛い!」という先入観をいかにやわらげて検査していただけるか、を自分なりに工夫していきたいと新井技師は語る。



▲「少ない線量でも鮮明な画像が得られるCプレートは頼もしい」と新井技師